

2010年5月23日

## 第4回ジオパークユネスコ国際会議 参加報告

日本ジオパーク委員会事務局

表題会議が4月12-15日にマレーシアランカウイ島で行われ、日本ジオパーク委員会事務局から渡辺真人が出席した。本会議は2004年に北京で第1回が開催され、その後2年ごとに行われているジオパークに関する最も大きな国際会議である。

会議に先立ち、4月10、11日に、世界ジオパークネットワーク(GGN)加盟ジオパーク、および加盟をめざしている地域がブース展示を行うジオパークフェアが開催され、観光客や地元小中学生が多数見学に訪れた。日本からは、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の三つのGGN加盟ジオパークと、日本ジオパークである阿蘇ジオパークが出展した。

会議の参加者は約500名、日本からは57名が参加した。参加者が、地球科学、環境保全、観光、地域経済などの研究者、行政担当者、ジオパークの運営組織関係者など、多岐にわたるのがこの会議の特徴である。日本からは多くの自治体関係者が参加した。基調講演・一般講演では、教育と普及、ジオパークにおける保全、ジオパークを通じた地域経済活性化、ジオツーリズム、新たなジオパーク候補の紹介、ジオパークの運営、市民・地元企業との協力などについて、理念・手法・実践例など様々な角度からの発表が行われた。日本人の発表は11件、うち5件が自治体関係者によるものであった。ワークショップも行われ、地球科学をわかりやすく伝える方法、ジオパークにどう観光客を呼ぶかなど様々な実践的な議論が行われた。14日夜のディナーパーティーでは、前回の会議以降の2年間に新たにGGNに加盟した地域への記念品の贈呈セレモニーが開かれ、昨年8月に加盟を認められた日本の3地域の市長・町長も壇上で祝福を受けた。なお、今年3月に行われたヨーロッパジオパークネットワーク(EGN)の coordinator meeting において、2カ所のジオパークのEGN加盟が認められ、規則によりEGNに加盟を認められたジオパークはGGNにも自動的に加盟が認められるため、本会議にあわせて11日に行われたGGN Bureau meeting において、この2カ所のGGN加盟が承認された。その結果、現在GGN加盟ジオパークは21ヶ国66ヶ所である。

このほか、GGN bureau meeting では、現在GGN加盟申請中の山陰海岸ジオパークの書類審査通過が決定した。(その後、帰国後のGGNとの協議によって、現地審査は8月2~4日に行われることとなった。)また、第5回の本国際会議の開催地に立候補していた島原半島ジオパークが正式に開催地に決定し、本会議の最終日に発表された。

さらに、会議期間中(13日)に、アジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)の第2回 Advisory committee も合わせて行われ、渡辺真人が日本から出席した。まだ組織・規約などの検討が始まったばかりであるが、近い将来この委員会がアジア太平洋地域のジオパークを評価・認定することとなる。来年APGNの国際会議がベトナムで行われる予定である。

以上